

公益社団法人厚木青年会議所 2021年度

テーマ

「志」～こころざし～

公益社団法人 厚木青年会議所 2021年度
第53代 理事長 熊坂 崇徳

【はじめに】

昨年、2020年度は、56年ぶりに東京オリンピック・パラリンピックが開催される年となり、多くの観光客や海外の選手が日本に訪れ、世界中から注目される予定でした。しかし、昨年2月から猛威を振るった新型コロナウイルスによって、我々の生活環境は一気に変わりました。オリンピック・パラリンピックの延期や緊急事態制限の発令、感染拡大防止のためのJOC運動の自粛など様々な壁にぶつかりました。

しかし、私たち厚木青年会議所は、このような時こそ、ピンチこそチャンスに変えるために行動して参りました。インターネットによるWEB会議の導入、テイクアウトマップの作成、繋ぐプロジェクト実行委員会による事業の実施など、緊急事態だからこそ柔軟な発想と、いま求められている事をメンバーで議論し、展開していくことにより強い絆が結ばれました。

青年会議所は、20歳から40歳までのメンバーが、まちづくり運動や青少年育成、地域貢献、自己修練、仲間づくりなど、この瞬間にしか出来ない事を全力で取り組むことによって、夢の実現や自己成長に繋がり、地域の明るい未来が見えてくると確信しています。

厚木青年会議所が、厚木市・愛川町・清川村にとって必要な団体であることは、先輩達の活動によって証明されています。現役である私たちは、過去から培った経験と積み重ねてきた実績を引き継いで、明るい豊かな社会の実現のために率先して行動して参ります。

【自己成長と会員交流】（共通・重要）

厚木青年会議所は、毎月例会が行われますが、例会をなぜ開催するのか、昨今その必要性和担当委員会の思いが伝わらずに開催されていると感じます。そし

て、メンバーも例会の重要性を低く位置付けされていると感じます。

10年目を迎える私も入会2年目から6年目までは、例会を欠席することが多くありました。それは、仕事で遅くなり休んだ事もありましたが、愛川町から例会会場に行くのが面倒になったり、何回も欠席をすると行きづらくなり、出席する勇気がなくなったりしていました。しかし、欠席が多くなっている私に、当時の委員長や同期のメンバー、理事長が「最近来ないけどどうした」「何か悩みがあるのか」など心配の電話を多く頂きました。そのような声掛けを頂き、久々に例会へ出席をしたところ、「よく来てくれた」「この後、サロンでいろいろと話そう」など温かく迎えて頂きました。ただ行くのが手間だからと出席をしなかった当時を振り返ると、もっと例会に出席して、卒業をしていった同期や当時のメンバーと話し合いたかったと後悔することがあります。限りある時間の中で、厚木青年会議所に無駄な時間などないことを現役メンバーに伝えて参ります。

今一度、原点に振り返り、地域のリーダーを志す青年経済人の社会活動を目的とし、自己成長に繋がる実りある修練の場を提供し、志を同じうする者、相集い、力を合わせ、青年としての英知と勇気と情熱をもった JAYCEE の育成の場として繰り返し広げていきます。例会は、各委員会・会議体のメンバーが何ヵ月も前から準備をして開かれます。例会の重要性、仲間の苦勞、出席する大切さを考えなければなりません。例会出席率を向上する為に、仕事や家族の関係で例会会場に来られないメンバーに対して、昨年から取り入れているインターネットによるWEBでも例会が見られる方法を導入して、仕事場や自宅でも、パソコンやスマートフォンなどを利用して出席できるようにします。また、委員会で例会出席率の競争をして年度末に表彰するなど出席することによる出席意欲を向上させる方策を数多く考えています。

一人ひとりが行動すれば意識が変革していき、例会を通じて交流していくことがメンバーの結束力強化に繋がることは間違いありません。強い組織となった厚木青年会議所が、各種事業で市民を巻き込みながらまちづくりが行われたとき、目標は必ず実現することを信じ活動して参ります。

【まちづくりの一步はまちの魅力を知ること】(まちづくり)

厚木青年会議所は、持続可能なまちづくりを行い、厚木市・愛川町・清川村の発展と市民意識の変革をしてまいりました。それは52年間にわたり地域に根を張った運動を展開してきた我々の誇りでもあります。そして、まちづくりは継

続的かつ効果的に活動していくことが重要です。

まちの歴史や文化を学ぶ事で、このまちに対して愛着が生まれ、地域に誇りを持つことが出来ると考えます。しかし、この地域に住まう住民の方々にも、この素晴らしい歴史は、あまり知られてはいません。古くからある産業や伝承、遺跡などを学び、体験して貰うことにより住民が住み続けられるまちづくりへと繋がると考えます。

まちの魅力や特色が一番にあらわされているのが地域のお祭りではないでしょうか。それぞれの地域がもつ歴史や文化を取り入れた伝承などを基に行われています。この地域で行われるお祭りを守り、伝承していくことも、まちづくりの一つではないでしょうか。また、厚木青年会議所のまちづくりは、3市町村で一つの青年会議所が活動しています。それぞれのまちづくり政策を知るために、3市町村の首長と交流できる機会を作り、地域の状況に即したまちづくりを繰り広げて参ります。我々の積極的な活動が人と地域を結ぶ担い手となり故郷の素晴らしさを伝え、地域が活性する事業を展開して参ります。

このようにまちの成り立ちから、今に至るまでの歴史、文化、まちの魅力を知る事により、まちづくり運動が広く波及していくこととなります。そして地域を知ることがメンバーにとって多くの成長と発展の機会でもあります。その機会を最大限に活かして、より良い社会の実現に向けて活動していきます。

【未来を託す子ども達へ】青少年育成・ひとづくり

青少年育成は、厚木青年会議所にとって最重要項目の一つ位置づいた事業だと考えています。小・中学生で体験した事は、大人になっても心の奥底に残っていると共に、子ども達の成長にも直結しているものです。だからこそ、多くの事業展開をして参りました。

厚木市・愛川町・清川村には数多くの魅力があります。その歴史、自然、文化に触れ、子ども達が関心を持つことで郷土愛が生まれ、まちの未来を担う子どもが育つのではないのでしょうか。そのためには、子ども達が住む地域を知る事が必要であり、地域の魅力が体験出来るふれあい事業や、自然の中でアドベンチャー体験、子ども達の地域の魅力を発表できる場所の提供をしていきます。健全な子ども達を育成することは私たち大人にとっても成長に繋がります。家庭、学校、地域と協力し未来を担う子ども達の育成をしていきます。

子どもは地域の宝です。地域に愛着を持ち、地域の人々と触れ合い、日本に誇

りを持てる子どもたちを社会全体で育むことで、今以上に良い社会が築かれると確信しています。地域から全国へ、世界中へと子どもたちの視野を広げる。その結果、彼らに支え合いの心が生まれ、支え合いという無限にある可能性の力を社会へ届け明るい豊かな未来へ導いて参ります。

【資質向上とメンバー交流の先にある友情】（研修・会員開発）

青年会議所は人を育成する団体であると考えます。しかし、我々の活動に講師はいません。同年代のメンバーが同じ地域に住み、同じ地域で働き、同じ地域を愛し、同じ価値観で構成されているからこそ、同じ目標を持てるのであります。これからも JC 運動を展開していくためには、メンバーの使命感や責任感、連帯感が重要であり、メンバー一人ひとりの資質向上に取り組まなければなりません。

私たちは、JAYCEE としての立場、青年経済人としての立場、親としての立場など、様々な立場に置かれています。今置かれている立場を理解し、自ら率先して行動することで、地域に貢献できる人財へと成長していくのではないのでしょうか。20歳から40歳までのメンバーが、それぞれ違う道から厚木青年会議所に入会をしています。メンバーには多種多様な個性をもった者がいます。地域のリーダーに成長してもらうために、青年経済人としてマナーの習得や会話能力、エチケットなど社会人として必要な知識を研修など通じて己を磨き、自己修練しなければなりません。

厚木青年会議所の設立趣意書にもあるように、メンバーが友情を深め、常に修練を怠らず、奉仕の精神を養い、成長へと繋がっていくと確信しています。

【共に学び、共に成長する仲間の増強】（会員拡大）

昨今、青年会議所は全国において会員不足が問題であり、厚木青年会議所でも会員の拡大は急務であると考えます。また、入会者の平均年齢も上がり活動年数が少なく、運動の展開や理事の成り手不足が問題になっています。我々は JC 運動に共感し、同じ志のもと活動を共にする仲間を増やしていかなければなりません。

かつて100名 LOM として厚木青年会議所は活動していました。しかし、年々会員数は減少していきました。まだ厚木市・愛川町・清川村には輝かしいダイヤの原石はたくさん眠っていると考えます。そして、限りある時間だからこそ自分の持てる最大限の情熱を注ぐことができます。長期的な視点をもって青年

会議所という組織に誇りと愛着を持ったメンバーを、この3市町村に数多く輩出していくことも我々の大切な役割ではないでしょうか。まさに、青年会議所における会員の拡大は、JC運動そのものだと考えます。

昨年度は、コロナウイルスの感染拡大防止のためオブザーバーや対象者との直接会いに行くことが困難な状況でしたが、メンバー全員で声掛けや入会前にライングループに参加、我々の活動を共有して貰い、ZOOMでの例会を体験して頂くなど例年とは違う手法で拡大を展開してきました。

今後もJC運動を展開していくには会員数の増加は必須であり、青年会議所が持つ魅力と意義を改めてメンバー間で共有し、50周年を機に策定した厚木JCネクストビジョンを展開し、本気の会員拡大に戦略的に取り組み、地域のリーダーとして社会貢献の精神を育む同志を増やしていかなければなりません。そして、自己成長の機会を提供することのできる厚木青年会議所をこれまで以上に魅力ある団体とするために、全力で会員拡大に取り組んで参ります。

【運動の発信と学びの提供】(広報渉外)

厚木青年会議所の運動を発信していくことは、我々の運動を理解してもらい、多くの仲間と地域の理解者を増やしていくことにより、活動の幅と規模も大きく展開することができるのではないのでしょうか。

ホームページやSNS以外にも、地域の広報誌やインターネットテレビ、行政の公報紙など多種多様な媒体を使い広報戦略を展開していきます。広報というと、知名度を向上させることだけが目的と思われるかもしれませんが、厚木青年会議所では知名度だけでなく運動への理解・共感を同時に広げていく必要であると考えます。我々から運動を発信していくのはもちろんのこと、多くの人的ネットワークを持つ厚木青年会議所ならではの仕組みを活用し、行政や各種団体、市民の皆様とパートナーを組み、幅広く厚木青年会議所を発信していきます。

また、厚木青年会議所だけの運動では成長に限りがあります。更なる自己成長を目指すためには、外へと飛び出していかなければ「井の中の蛙、大河を知らず」となり、先がありません。厚木青年会議所では山並み4LOM(JCI秦野・JCI厚木・JCI伊勢原・JCI足柄)合同例会、関東地区、日本への出向、様々なネットワークなどを活用して学べる機会を提供することができます。更に、昨年度は、公益社団法人日本青年会議所神奈川ブロック協議会の会長を輩出したLOMとして、多くのメンバーが神奈川ブロック協議会に出向をして、学びを得てきま

した。出向してきたメンバーが活躍できる場の提供と、出向に意欲のあるメンバーへの支援をする機会を与えていくように努めて参ります。

【厳格な組織運営】（総務）

組織運営をするにあたって総務は最も重要な担いを行います。JC 運動を円滑に進めるために JC ルームの管理から、メンバーへの例会や当日の例会報の作成、理事会の設営から資料の送付、厚木青年会議所の最高意思決定の場である総会の準備から設営まで多くの役割を果たします。

我々の活動を活発に展開していくためには、JC プロトコルを遵守しコンプライアンスの強化を図った厳格な運営をすることで組織のガバナンスを強化することから始めなければなりません。また、例会出席率の向上を目指して、メール以外での案内通知の検討や、新しく理事になるメンバーへの理事会の重要性やロバート議事法による会議運用のルールなど基礎知識の向上を目指していきます。また、時代に即した組織運営を遂行するために、定款を見直すことも視野に入れ、厳格な組織運営を心がけていきます。

そして、青年会議所では SDG s を積極的に取り入れて持続可能なまちづくりとして展開していくとともに、昨年度から神奈川県とかながわ SDG s パートナーとして提携し、SDG s の推進と地域への普及促進活動をしていきます。

我々の組織に誇りを持ち、今まで以上に地域から信頼される組織へと昇華するべく、責任感と使命感をもって活動してまいります。

【結びに】

いつの時代も歴史の変革には若者の行動が直結しています。江戸から明治へと大政奉還を成し遂げるために尊王攘夷をかかげ、志を持って、命をかけ、獅子奮闘していた幕末の志士や新選組も 20 代から 30 代の青年達です。明治維新から約 150 年、元号が明治から令和に代わり近代化した日本でもまちづくりの中心は我々青年が率先して行動をしなければ何も変わりません。

53 年目を迎える厚木青年会議所は、こんなにも長く運動の展開をすることができたのは、先輩諸兄の並々ならぬ努力と活動が地域の為に貢献してきたからです。また、行政をはじめ、各種団体や市民の皆様のご協力があったからこそ JC 運動を展開することができました。この汗と涙と思いの詰まった運動を 10 年先、20 年先へと引き継いでいかなければなりません。

私が厚木青年会議所で成長してきた全ての事が、私の行動指針となっています。この素晴らしい運動をさらに多くと仲間と展開していくことが、生まれ育った地域である厚木市・愛川町・清川村に感謝をするとともに、恩返をするべく2021年度を、志をもって、全力で邁進することをお誓い申し上げ、結びとさせていただきます。

以上